

令和8年8月14日

【富山県美術館】企画展「つぐ mina perhonen」開催および一般前売り券販売のお知らせ

富山県美術館では、2026年10月10日（土曜日）～12月22日（火曜日）の間、企画展「つぐ mina perhonen」（つぐ ミナ ペルホネン）（※aの上にはウムラウト／トレマ）を開催します。一般前売り券は2026年8月17日（月曜日）から販売します。



2025年に創設30周年を迎えたファッション・テキスタイルブランド、ミナ ペルホネン。「つぐ」という言葉でその活動をひもとく展覧会、「つぐ mina perhonen」（つぐ ミナ ペルホネン）を富山県美術館で開催いたします。ミナ ペルホネンのものづくりは、デザイナーの手作業によって生み出されるテキスタイルの図案からはじまります。そのデザインは、熟練の技術者でもある職人たちとの対話と試行錯誤、工夫を重ねることによって、布となり、布から服、そして様々なインテリアプロダクトへと実を結んできました。本展では、100年後も存続するブランドとしてのあり方を模索しながら独自のプロダクトを生み出してきたその活動を、貴重な原画やテキスタイルにくわえ、刺繍、織、プリント工場の様子などを通してご紹介します。流行に左右されず、普遍的な価値を追求するミナ ペルホネンのものづくりのありかたに触れられる展覧会です。

本展メインビジュアル（2種のうち1種）

本展のために、ミナ ペルホネンのデザイナー田中景子が「つぐ」をテーマにしたアートワーク《スーころん》を描き下ろしました。グラフィックデザインはアートディレクターの葛西薫が担当しています。

mina perhonen（ミナ ペルホネン）

デザイナー・皆川 明（みながわ あきら 1967 - ）が1995年に設立した「mina」を前身とするブランド。流行に左右されず、長年着用できる普遍的な価値を持つ「特別な日常服」をコンセプトとし、日本各地の生地生産地と深い関係性をつなぎながら、オリジナルの生地からプロダクトを生み出す独自のものづくりを続けている。

「せめて100年つづくブランド」という思いでファッションからスタートした活動は、次第にインテリアや食器をはじめ、食や宿など、生活全般やホスピタリティを基軸とした活動へと広がっている。

開催概要

展覧会名

「 つぐ mina perhonen 」 (つぐ ミナ ペルホネン) (※a の上にはウムラウト／トレマ)

会期

2026 年 10 月 10 日 (土曜日) ～ 12 月 22 日 (火曜日)

開館時間

9 時 30 分～18 時 00 分 (入場は 17 時 30 分まで)

休館日

毎週水曜日、10 月 13 日 (火曜日)、11 月 24 日 (火曜日)

会場

富山県美術館 展示室 2、3、4

主催

富山県美術館、北日本新聞社、チューリップテレビ、朝日新聞社

富山会場協賛

MAE

観覧料

一般前売り：1,150 円、一般：1,500 (1,150) 円、大学生：750 (570) 円、高校生以下無料
() 内は 20 名以上の団体料金

一般前売り券の販売は 2026 年 10 月 9 日 (金曜日) まで。

【前売り券販売所】

富山県美術館、富山県水墨美術館、アーツナビ、富山県美術館公式オンラインチケット

グラフィックデザイン

葛西薫+SunAd

会場構成

阿部真理子

本展の構成

本展は、chorus(コーラス)、score(スコア)、humming(ハミング)、ensemble(アンサンブル)、voice(ボイス)、remix(リミックス)の6つのエリアを通して、流行に左右されず、普遍的な価値を追求するミナ ペルホネンのものづくりとその思想を伝えていきます。

各エリアの詳細については、別添資料を（PDF：898KB）参照ください。

本展の見どころ

1：全国巡回の展覧会「つぐ mina perhonen」の富山県美術館開催

本展では、ミナ ペルホネンの活動を、貴重な原画やテキスタイルにくわえ、刺繍、織、プリント工場での制作風景動画などを通してご覧いただけます。流行に左右されず、普遍的な価値を追求するミナ ペルホネンのものづくりのありかたを、この富山県美術館で体感することができます。

2：トークイベントでも、ミナ ペルホネンの世界と出会う

会期中には皆川 明氏のオープニングトーク、田中景子氏と本展デザイナーたちのクロストークなどを開催予定です（いずれも事前申込要・応募多数の場合は抽選となります）。

会期中のイベント

オープニングトーク 皆川 明

ミナ ペルホネンの創作者・デザイナーの皆川 明氏に、ミナ ペルホネンの歩みやものづくりへの思い、「つぐ展」について語っていただきます。

日時：10月17日（土曜日） 10時30分～12時00分（要・事前申込）

会場：富山県美術館 3階ホール

定員：80名（申込多数の場合は抽選）

登壇者：皆川 明（ミナ ペルホネン創作者・デザイナー）

参加費：無料

参加申込：往復はがきでご応募ください。返信用はがきで参加の可否をお知らせします。9月18日（金曜日）頃発送予定。

詳細は当館WEBサイトをご覧ください。

申し込み締切：2026年8月31日（月曜日） 当日消印有効

クロストーク 田中景子 × 阿部真理子 × 小林昇太(SunAd)

ミナ ペルホネンのデザイナーの田中景子氏と、「つぐ mina perhonen」展の会場構成やグラフィックデザインを通して本展とそれを取りまく世界をつくってきたデザイナーの方々との、クロストークです。本展をつくりあげるまでのエピソードや、富山県美術館での開催への思いなどを語っていただきます。

日時：10月25日（日曜日） 13時30分～15時00分（要・事前申込）

会場：富山県美術館 3階ホール

定員：80名（申込多数の場合は抽選）

登壇者：田中景子（ミナ ペルホネン代表・デザイナー）、阿部真理子（建築家、本展会場構成担当）、小林昇太（SunAd 所属、本展グラフィックデザイン担当）

参加費：無料

参加申込：下記のフォームからお申込みください。

<https://shinsei.pref.toyama.lg.jp/SksJuminWeb/EntryForm?id=UBautZ5L>（外部サイトへリンク）（別ウィンドウで開きます）



応募受付期間：2026 年 8 月 24 日（月曜日）10 時 00 分～9 月 11 日（金曜日）18 時 00 分

（※）当選者のみに 9 月 25 日（金曜日）頃までにメールで通知いたします。

（※）その他、会期中に追加でのイベントの実施が決定した際は、当館ウェブサイトおよび本展の公式サイトにてお知らせします。

お客様へのお願い

- ・ ご来館の際は、当館ウェブサイトの入館のお願いをご確認ください。
- ・ 本展覧会場内での観覧については、他のお客様へのご配慮をお願いします。
- ・ 本展会期中の展示、イベントの内容、ミュージアムショップなど館内施設の利用について、お知らせを行う場合がございます。
- ・ 本展会期中の最新情報は当館ウェブサイト等での確認をお願いします。
- ・ 展示やイベントの内容は都合により変更となる場合があります。

ご取材・掲載用写真について

広報用画像提供・取材申込書は、下記申請書にご記入の上、ご送付をお願いします。

広報用画像提供・取材申込書（PDF：4,843KB）（別ウィンドウで開きます）



【つぐ minä perhonen 会場構成】

各写真は、東京会場での展示です。 Photo: Manami Takahashi

chorus

ミナ ペルホネンは、テキスタイルからものづくりを始めるブランドです。ブランドの活動当初から、洋服をフォルムからデザインするのではなく、布地から作りはじめるという姿勢を貫いてきました。そしてこれまでにデザインされたテキスタイルの図案は、1000 種を越えます。chorus では、その中からおよそ 180 種類のテキスタイルが並びます。ひとつの柄から別の柄へ、またさらに次の柄へとアイデアが展開しデザインが派生していく様子や、ひとつのデザインがワンシーズンのみでなく、時を超え、少しずつ姿を変えて受け継がれていく様子が感じられます。



score

ミナ ペルホネンの活動の基盤にあるテキスタイルは、デザイナーの構想とスケッチからはじまり、デザインを練りながら、そのつど試作を繰り返し、多くの人の手や工程を経て、生産へとたどり着きます。そこから初めて、さまざまな洋服やファッションアイテム、さらには暮らしを彩る道具たちが、生まれていくのです。score では、ミナ ペルホネンのアーカイブから選ばれた 21 柄のデザインの成り立ちと、それぞれのテキスタイルから多様なアイテムが生まれていく過程を紹介します。



humming

東京にあるミナ ペルホネンのアトリエでは、日々、新たなデザインや企画が生まれます。妥協のないデザインの現場。そこは集中して作業に取り組む場所であり、多くの人との対話が行き交う場所でもあります。それぞれの手作業の音や、打合せを重ねるスタッフのやりとりなどが響きあうアトリエの制作風景。デザイナー・皆川 明と田中景子のデスクが並ぶアトリエを再現した humming では、その日常を彩るアイテムや、日々の制作に使われている画材などを通して、豊かな創造の場にながれる空気を感じることができるでしょう。



ensemble

刺繍、プリント、織。ミナ ペルホネンのテキスタイルづくりの中心にある3つの技術は、それぞれブランドと深い信頼関係を結ぶ国内の工場が担っています。そこでは、デザイナーが手作業で描いた図案を工場の職人が読み解き、デザイナーとの対話と試行錯誤を幾度も重ね、技術を駆使してかたちにしていきます。機械と手仕事の調和により、わずかな線のゆらぎや、微妙な色彩の重なりなど、ミナ ペルホネンのデザインの魅力が再現される様子をご紹介します。



voice

1995 年に創設者の皆川 明が「せめて 100 年つづくブランドに」と願ってはじめてミナ ペルホネン。そのブランドの代表のボタンは、2021 年に、それまで長いあいだ仕事を共にしてきたデザイナーの田中景子に渡されました。ふたりにとって、「つぐ」と題したこの展覧会の意味とは、そしてミナ ペルホネンのこれまでを創りあげ、これからを紡いでいくこととは。それぞれの想いが語られます。さらにはミナ ペルホネンの協業先や、親交のある方々へのインタビューを通して、それぞれの視点から「つぐ」の意味を探っていきます。



remix

着る人にとって「特別な日常服」となる一着を、たゆみなく作り続けてきたミナ ペルホネン。シーズンごとに発表される新作テキスタイルは、ワンシーズン限りではなく、その後も繰り返し用いられ、新たなアイテムとして生まれ変わります。使い捨てるのではなく、循環を生むデザインを体現するミナ ペルホネンは、ブランド創設当初から、修繕やお直しを行ってきました。本展では、その仕事をさらに発展させる試みとして、時間を経て修繕が必要になった服に、新たなデザインを加えたリメイクを行う、公募制のプロジェクトを実施しました。大切な一着が、この世にたったひとつのユニークピースとなる、ミナ ペルホネンならではのリメイクのあり方が提示されています。



つぐ minä perhonen 広報用画像一覧

画像①	画像②	画像③	画像④
画像⑤	画像⑥	画像⑦	画像⑧
画像⑨	画像⑩	画像⑪	画像⑫
画像⑬			

お問い合わせ

富山県美術館 〒939-0806 富山県富山市木場町 3-20

tel : 076-431-2711 fax : 076-431-2712

メール : abijutsukan@pref.toyama.lg.jp

担当 : 広報に関して : 川浦 展覧会に関して : 稲塚

つぐ minä perhonen
広報用画像申込書E-mail : abijutsukan@pref.toyama.lg.jp / FAX 076-431-2712

■別紙記載の注意事項をお読みいただき、以下の必要事項をご記入の上、お送りください。

申込日			
貴媒体名			
(WEB の場合の URL)			
貴社名／部署			
ご担当者氏名		E-mail :	
ご住所	〒		
ご連絡先	TEL :		FAX :
掲載／放送予定日	年	月	日
掲載号発売日	年	月	日
掲載企画内容	※ご取材希望の場合はこちらに内容、希望日をお書きください。		

※ご記入いただいた個人情報は、広報用写真貸し出しの目的のみに使用し、それ以外の用途には使用いたしません。

■掲載ご希望の画像 (□にチェックを入れてください)

広報用画像一覧・掲載時のキャプション			
☐	①“surplus” 2003-04→a/w	☐	②“one day” 2018-19→a/w
☐	③“pot-au-feu” 2015-16→a/w	☐	④“tarte” 2007-08→a/w
☐	⑤“swing camellia” 2022-23→a/w 原画 Photo: sono (mame)	☐	⑥“sea sky” 2025-26→a/w Photo: Keita Goto(W)
☐	⑦“alive” 2011-12→a/w 原画 Photo: Shinichi Yamasaki	☐	⑧“swing camellia” 2022-23→a/w Photo: Hua Wang
☐	⑨“kivi” 2025-26→a/w Photo: Keita Goto(W)	☐	⑩刺繍工場での補修作業 手元風景 Photo: Yayoi Arimoto
☐	⑪“forest parade” 2005→s/s 原画と刺繍パーツ Photo: sono (mame)	☐	⑫展覧会メインビジュアル (アートワーク：皆川 明《クルクル うねうね》)
☐	⑬展覧会メインビジュアル (アートワーク：田中景子《スー ころん》)		

※テキスト・レイアウト含めた校正のご提出をお願いいたします。確認に一定のお時間をいただきますのでご了承ください。

※その他、美術館外観等の写真が必要な場合は、下欄にご記載ください。

お問い合わせ 富山県美術館 〒939-0806 富山県富山市木場町 3-20
 tel : 076-431-2711 fax : 076-431-2712
 メール : abijutsukan@pref.toyama.lg.jp
 担当 : 広報に関して : 川浦 展覧会に関して : 稲塚



富山県美術館 広報用使用画像について

- ◎ 本広報用画像の使用は、出版・放送（番組）・WEB 等、富山県美術館および展覧会の広報を目的とした報道に限らせていただきます。展覧会の広報にあたっては、展覧会名、会期、会場を必ずご掲載ください。
- ◎ 画像は「広報用画像申込書」に掲載または放送内容を具体的に記載の上、ご申請ください。富山県美術館より画像データをお送りいたします。提供した画像データは、使用後すみやかに破棄してください。
- ◎ 画像使用の際は、「広報用画像申込書」をご参照の上、所定のキャプションとクレジットを表記してください。
- ◎ 画像はトリミング（切り取り）はせず、全図で使用してください。作品が切れたり、キャプション等の文字や他の画像を重ねてのご使用はできません。
- ◎ WEB にてご掲載の場合には、コピーガード（※右クリック不可）を施す、画像サイズを落とすなど、二次使用防止への可能な限りのご対応をお願いします。
- ◎ ロゴマーク・ロゴタイプに他のデザイン要素を重ねたり、横ロゴマーク・ロゴタイプに他のデザイン要素を重ねたり、横切らせたり、余白を削除したりすることはしないでください。
- ◎ 申請をいただいた媒体以外の企画（例：出版物表紙、広告素材使用は不可）での二次利用はできません。再掲載・再放送などを希望される場合は、別途申請が必要です。
- ◎ 基本情報と画像使用の確認のため、校正をメールで富山県美術館広報担当までお送りくださいますようお願いいたします。
- ◎ 掲載および放映いただいた場合、お手数ですが掲載紙・誌、URL、番組収録の DVD、CDなどを富山県美術館へのご提供をお願いいたします。

お問い合わせ 富山県美術館 〒939-0806 富山県富山市木場町 3-20
tel：076-431-2711 fax：076-431-2712
メール：abijutsukan@pref.toyama.lg.jp
担当：広報に関して：川浦 展覧会に関して：稲塚

